略縁起出家形氣

全

へ遠13
1659

1659

序

人ものを志すはじめ中の程ふかくこゝろにおもひ入ることなれども今ハ棟門高き遠はるゝ信者いやのまゝ家集を庫裏にかくすよしを云ふ及ぶ門書が陽者面ぐ出家法師きあるまれまを之を仏法ものやみまいの中小生白キ小庵墨キ日筆乾

饗庭文庫

出家形儀を生死を仏と祖師
書集め立つの書を先祖親父
僧家より因縁を思ひ出すべと
大慈悲を以て亦かゝる様りぬ
出家小乗の作ハ乱世の情の
癖小乗見ゆるの

時和六年

八文舎自笑

宝福寺図書

勝縁記出家形儀

一之巻

同録

第一 寄力寺禅法

此玉だを記ハ大徳和尚の所持
月中の生涯ハ道士の書を伝
者人ハ時節ものに応じ出り

第二　寄繪筆道雜實

はし一神々面の面筆が筆係
先住が世話をいて白る樣子ハ
記るまたげう白紙なる上方の漢

第三　寄梅姫一高道

是ハ面白傳来の必譜なる屋で
ござる迚て出家の其兄弟人の
素狀ハ移もるい　屋敷の出家

宮城文庫

一　寄力福彈法

とのくせにたゝる所にて。実ハ被酒吾事子と云ふ巻高の長か
あ〜ば塗城の張子ゐ巳りたもあんう元来丹波ハ深山幽つ
なりて猛獣居とうと所ゝ。夜に丹波住るの流通さを始れ
うゝの神ちれ住居を通ハ生れ対ほるまゝ別ふる意ぢあ猛立
とあゝ。面白ゝたゝ如と毎月こにて第うん酒のさゝひよハ。山ふ
うけりて揺とたのゝ〜庄屋屋の二番ぢとゝ〜ゝ。て。坊主ひる面
に神者ゝ〜め祈祷ゝうゝげて此教生めゝ。ゝう人住物のるとゝ
味花ゝ外法ゝ文名文性の樣ゝんぢゝ不敬ゝ所と道風ゝいゝ
ゐ遣ひの人ゝ四月ゝ。ゝ祈ゝ色男なゝ〜ゝ程ゝ色と仕ゝ。

小人今年の盆ばかりに入て新四郎
せがれ月情てあるまあるれ
ゑひ人累祢と接ろすと名人なれ新て帰しめ
百性又新の年間とて山和尚と言伝し亭主若衆
もそ新。乞ゆく和尚新兵衛兼来の亦時でありて
てトさるませとの接拔ふね仏の祖つ
なろるされとの通と和尚宝とゑめてむ
人をゑげるもと云ろ和ろ。山嶺ろ
吟てもつくれる接あけて云ろ
百性ゝとゝ云ろと云つろ。月の
の若しるくゝと吟そ人せて
ござ月。乞ゆ月の晩月だやゝ

でゝ人ゝ。こゝろ京ゆ人せ
業接ろ山の山源のあゝ。今
入ろ和尚新兵衛よりゝ
ゝ和尚ゝ。
ゝと云ゝ
ゝ。
ゝ。
ゝ。

ふたりまでも怪我をさせ二つの刀を抜てあばれ廻りあの様なけがをすることでおそろしい
幽霊や幽霊が住まうてゐるやうでこざるぬ又新くも長作ぶがんばりてゐるそこまで
あるまい今月此家を立者でも幽霊でも幽霊でも出て来て出てかんまをだやとろうこと
絶入るまで押へ付ぶるとあれば骨ハ折れ肉ハ焼とこなごんなふうこでした。
地水先生と迫ちして怪うとおもをこさび戒名をんばまあれかて思ひてゐる
るを年ゐ流とさとりてゐる品しこ。ゐるゐ先と計迎ぶ人のかゆまいよく
和尚さう人の生前と者ゐ迎ぶ月和尚大勢
逆様に押出こ人間ハ口たのれ信者と始り家来ゐ元禄にて相ならう
あげ。かれ今新勘編長屋新具屋にあるゐ也いもおさび迎ぶて家来
ゐ迎ぶ出ゐるまゐ迎ぶ人今家ふ和尚元禄でゐられなぶゐら
どゐ。去年ゐ今の迎人ゐ迎て男新ゐ迎ぶる長作迎人来ゐるゐん
どこを使ひ出しく大物ぶりゐ出入ゐ。ゐ作ぶゐるゐん去ぶゐ。

和尚ぶの男作ぶ様ゐ元ぶ迎ぶ長作ぶの元ぶ迎ぶ人ゐ出ぶ
家ゐ迎ぶ夜と長ゐ迎ぶ。後新ぶ出ぶ作ぶ
一夜にしまゐぶ付とゐ先ぶ。ゐぶ家ゐ迎ぶ
本の新ぶ板屋のゐ迎ぶ人ゐ投人ゐ作ぶ被ゐ長ゐ機と
ゐ迎ぶ人ゐ。ゐ長作ゐ先ぶ迎ぶ人ゐ作ぶ
ゐ迎ぶ人ゐ。ゐ長作ゐ先ぶ迎ぶ人ゐ作ぶ
ゐ迎ぶ人ゐ。ゐ長作ゐ先ぶ迎ぶ人ゐ作ぶ
ゐ迎ぶ人ゐ。ゐ長作ゐ先ぶ迎ぶ人ゐ作ぶ
ゐ迎ぶ人ゐ。ゐ長作ゐ先ぶ迎ぶ人ゐ作ぶ

かしらぶる
ふぬけもの
やつる
のこぎり
うて
いのそ
雲道和尚
ぶらぶらん
ぶらん
書
長阪
住吉屋
つんきする
あること
りふかへ
てゑ
あるもの
きんぎ
書

大我
言
侑
和尚
ちりの
ちんあけとろえ
西すき
文
袴
がら
和尚の
ちんとそえ
ぴっろ
まる
文をかく
三ヶの里の
安住住吉屋
あんこう

[illegible]

(二) 書絵筆近雅賞

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うどの人金しの新の法をうてめいてさ。みさ東の法石は海上に新田と屋ごそ
法てかうう亜人仲の和尚西方合せ。同よ南立てうも絵のでんさに曙石元
あ人ど。これど私の縁たが横ふで切ま費ふと角紙そこ可ひまとにしのでと
ま一て常の法紙と拾ますこ云あけうゆ近名共紙屋ま元費
私の為めよこうじた。芝浦あげうしく又長紙まとたのこ立てしうう
ま上ど和尚よ向ひ。方伯ふう並いかづ身に角あ注とうてい。南芝共
奥とも絵とる元。こ多の年うま勇れでこちう絵とうくでいるて。絵
ふううとしう地じゆ。ごうくを信ふ絵ふふうあとくん面ま比ゆ茶ハ年言
へ和ドて茶を高茶たり元ど。だ人注度ど法合ひとうけて画うふた
いるゆく絵墨ゆ茶とロのうくもま茶ま比ゆ人の又ぬ形じゆそちの
こ元ふうるゆ。ゆ法の日ろなど法方まあう面面ゆても。ま。ゆけうう
絵ゆ絵ど絵とうじゆて法ゆ絵ど絵ゆ法ゆ絵ど絵ゆ法ゆ絵ど絵ゆ法ゆ絵ど絵ゆ法ゆ

らしゆう。ふう人白黄でも又せうくゆ。ゆうくうふううう面くとのうう
ど見入ゆ。ゆうう。ちどくゆこう人ゆうど法云上形の墓紀仲の和尚勿神
らくゆ。ゆ。ゆに。ゆ上色ど。和て絵ゆ元神ゆ赤ふう面ゆうくゆ法ゆ上ゆ人
のうあゆ年ゆに神の元ゆて冨共ゆうゆてゆ色ど。ゆ白法の法茶
ゆうゆい。ゆ白法ゆうゆうくゆ。ゆうくゆ。ゆうくゆ。

近のりてたづく塩と申せてやいづくでイヤ
るまゝ毋りうまいたと申せてどうく動面に花が咲て居に居ひ
出さりしべを雅寅流にて也こ宮ハうべ今ハ婦るおもゝと動に有て
けて此申し大きな蓮華とりいてて申にとりて世ま行方師ゴ
この仕様を人うハ一ゝ一ゝでう

三 宮ノ橋姫ニ居道

そて行くこんてゆ面ゝ宮人ゝ宮人ゝ宮人

と[illegible]の[illegible]しまつり[illegible]目[illegible]れ[illegible]おん[illegible]そうの[illegible]ぶ[illegible]。[illegible]今[illegible]
[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]と[illegible]。[illegible]の[illegible]ども[illegible]
[illegible]の[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]

勝縁記出家記

目録

第一　家業世を渡る義　二丁

皆下ホのくに少縁なるさまを
法師と法地の事ならつん家業
法人多の弱のおれがおまを

第二　高徧屋懐旧

けさ二月吳服ハ東山殿の御寄附
[illegible]
[illegible]
[illegible]

第三　高麗姫婦藤釈

けさ[illegible]の奥ハ高麗ゟ[illegible]
[illegible]ハ押ふ[illegible]
[illegible]帽子[illegible]

一　高麗姫婦藤釈

[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

さてこうよござりまするぞ〳〵ゆるまるものへこそ。爰に法師法
ぶ隆祇長居へ都の後己る所のあるうちに。柳小あで湯まれたるを接爰
和尚と今あの人の法後侍。文才長列の者ども世ぐ世に二世相の八月
まれりて師匠のよりて佛の法式武者多儀れて今に〳〵今ぞ。先年京にろ
ひて。公家。八卦外に三人まる多り。松尚八幡中所にれ小ちにおぼしてれ
長侯後。爰法川寺日南ちにろて拒爰和当法に〳〵看板が出るやうるるる
男女の条法堂にちく〳〵ちとれち法後侍ゆ揚げる仏ちへるうなてみてちダへ
八者ちうまちのれの法ぞとみちとて三あれ仏未に七歳まで仏若男みあり五宗。
今爰の侯へでうでと言めさ祇〳〵れ大人。抑出小抑ち。まてから法ちく〳〵へ
中〳〵寺身まで寺人の加法の心を。ちと板系れ賀のれのれ絶にちひ
くれかいめ〳〵付きうぞのおるみびいぞ〳〵れべるま除ち一人ちうこが来て爰
祇の柳ち来ちれて法揚られ。大手法東みの巻に曰。ゆうに被接波〳〵ちへ

世の者七人の修大力にて法院に法師の名人でござりまと来て又祇ちの来
あまり法つ身ちちぐ〳〵見祇ちこれ立ちうのみやうやいづまるり門れ紙ちと爰下
むてちこちひの舎会寺のこう浄ちれ収びれて我名ち浄収ちかう名ちてちを
兼て法ち祇ちとびと。俗ち法の祇ちん行人ち動ぐ〳〵浄収ちにつ立ちうて
ん仏ぐ五ち村立地ちれを。ちち法ちうこちるうう我接祇祇ちちうを
出てるうハ〳〵大成ち立余ち祇ちと今人ちうぐ〳〵れちまれれちひ。雑流れ面く
うちあり。こうく板幸れうまいちひぐ。かめめ法れ法祇。あら仏人が怪い平氏
祇六祇ちが平ち祇者の義ちと為ち平祇祇。おら仏人が怪い平氏
の豆ぐれ刑〳〵ぐ二長ちと。又八祇法ぐれ〳〵ぐれ法ちうん。物に法法の法祇
山屋の仏ちとちう大福ち。苦しう世ちとまれれ者物ち祇者仏ちの
ん力ちとちく人ちりそ〳〵ぐ。ちの時ん祇者ちうちきけるハ元六堂の業物中ぐ。迷ちの
ちうれちち来ちの祇ち来祇ちれちとぐるハ〳〵。仏人ちる聖法ちまれの八祇ちを

らるゝ。なほ、めが用儀ぞとるさまにて、ゑとゆきかゝ
ゆんゐまとゝ。毎度れ法華花陸に和尚めの法用とゝ
世俗めも。他宗の異を毎神も和極ろ人ゝ実はゝゝ信ゝ。あまりゝゝ
和尚めの方れ形式世切法華宗二切でん系ゝ。来来まとめの祈願極
の我あゝ三ゝ人と雑じゝ。和尚ゝゝの多く。だのゝ書ゝ見たゝと
ゑてさゝゝゝさん。地で藏治人まの藏治人も。家人と藏治でんゝ地で
先我方人のゝゝじとゝけてゝゝ藏治の文和
と。ゑゝ。かゝゝゝ

蓮の葉
月のあり
ゆき
とうまる
りつこう
まろい
きんけいぐるぐる
菊屋
菊屋坊
菱中ふ
唐土
世の
三ツ貝
のやい
月の
舞よ
のて

さあてうひみ住信大さんこまうこそとうせごんと之ゝ牧ゝの道おとをひまさ
おまんとをんべ西名と云てをゝの雑賀掛く世捨人も近年いろゝ様ゝ
かゝることゝ云てゝ人をちゝ様のうゝゝとうく。楊布は大級ゝ立ゝ
しゝ為男勾玉と伝ゝ有ひ。夫信の為ゝ為ゝ世にもこゝひ際ゝ
迄でたれの不肖よ今ゝ中ゝ〻ゝ度ゝ。今我国と雲てあゝゝゝ。そも
某ゝ花瓶寿龍の焔立ゝ為ゝ二つ異ゝの様ゝあゝいゝゝとゝひゝゝゝ。
おゝけゝゝも天皇清和帝は内宝物ゝ家ゝ例ゝひゝ月出ゝ記ゝ為
儀式ゝ一の掛ゝて。中は京山殿ゝゝゝに貴ゝゝゝひゝる位ゝ家ゝと席
とゝゝゝ床飾の法ゝゝゝ。月ゝ。絵ゝ伝道ゝ勅ゝまて。命ゝ
とゝゝめ紙ゝ耳とゝゝゝ。ゝの使ゝもゝゝけゝゝ。
中ゝふゝゝ様ゝ為の初ゝゝゝゝめゝてゝ様ゝ雑賀ゝ貴ゝて世人
寿龍とゝゝゝゝゝゝ。ゝゝ世ゝいゝる用

ゝゝゝゝとゝゝ今ゝゝゝゝて迷ゝゝゝ。又ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]と眠蔵の秘佛とーてのたけ[illegible]。あるあるあるの[illegible]人ちーでそ生成[illegible]
[illegible]ーれーが。又の内屋の[illegible]ーてー大石ぐーれ[illegible]ーちと内[illegible]ーで[illegible]人
て来てぶに[illegible]ーあーー西の京[illegible]月[illegible]ー[illegible]ー[illegible]人。[illegible]の[illegible]ーて[illegible]
[illegible]人糸柳とあちーー[illegible]ーれーちーー合ーー[illegible]ー[illegible]ー[illegible]ー[illegible]ー[illegible]ー[illegible]。
書ちる元祖の[illegible]を忘近づけ[illegible]人[illegible]の[illegible]ー[illegible]ー[illegible]ー[illegible]ー[illegible]ー

おかくぶらりとぐんづころんぞのこよろこにぞ[illegible]
ぶ庭より酔ふてふらふらよりあそかりこと。畢竟利の道つ中にはけ人押ぐ
て。みなかやぐんしもふふ[illegible]ど大勢れ[illegible]人女のくしこるい。第一大切なは
ふれ婦那姫たこ[illegible]ひとと平押の振振すて。ごの中うつ中
一七日のはてのそ尾ふくお勤まこ。[illegible]は[illegible]れ[illegible]て迎も大[illegible]と[illegible]
[illegible]ふちれ付ふふまこ[illegible]て。二人の女と行ふあてびこてやや
くれるいゆうにと。佛ありておきふ[illegible]仲人としてとにすれ[illegible]
[illegible]。トナムは[illegible]別[illegible]と[illegible]おるお宝ら[illegible]。二人の女は押されて和尚の
[illegible]に流ぶ[illegible]ちてむ[illegible]ら[illegible]。[illegible]時行ふ[illegible]ふ[illegible]て他ふ[illegible]ふ
けて[illegible]ふ[illegible]入[illegible]ふ[illegible]ふ。[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ二人の女ぐ[illegible]
[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ

形て孔明が山のつぐれよりみて魏延が伸達と谷の内より入金馬行が史と
親と見て大きに怒ること。俄に大雨降来て満谷の史とともに滅伸達
を逃さんと告げるに。史と伸て出撃し。車と誘る人よりてあと
こゝに天よりあらとして孔明がつの渭南の陣へ回りうちを毎度勝
と言く諸ごとにこゝに出ふこうに出と入くにおうき

訓蒙終

明緑記出家形乗

同緑

第一　寄獅子釋教

中巻に一枚有板かゝ也ものも
南寄山のかぶき芸者の出勢の図
仏ゝや　山岩帽子ハ表ひつの図

第二　寄山伏貧福

[illegible]
[illegible]
[illegible]

第三　寄丸鋸道心

[illegible]
[illegible]
[illegible]

(一)　寄[illegible]釈教

[illegible]
[illegible]
[illegible]

西王の女たち又久しく坊主たり芸者まりぐらのこゝろを男とうんでとゝ
めみだれいさの芸居おのゝけ役みて中くに内にく勧て月て色たゝ
本より今芸子と名とゝ。面白くに後生がさいて本てちゝ芸屋志
でくの出勧。不断切の宮かこを絶よ老人の嘗ふ及べ。巳方の石塔合
右衆こと実相て大きよ弱る況件のちゝ行行ゝ射ゝさるゝ手つけ
ゝこいゝ通ひでそろく芸者の稼さゝ居ゝ様ゝ契をむてめ。誠よ右位
扶助の義学徳8月絶よゝこゝれまひんまの我ゝ西王兵衛がさりめく
みゝゝこゝねの手をとるに。出られでいつゝやゝちゝ日けるる況業よ義人のの
より勿体なさ未来永劫の罪障ゝろゝこそ。人まのこゝろゝど近ゝち
ち所色の大吉井堺門まそ彼芸のと勧ゝゝ。性こ人女相肉合と行
のゝとゝにいよく他宗への邪婬夫行のゝ妻人ゝゝゝ男みをゝで
情ゝゝさゝゝゝいゝ放お世のむゝゝ放ゝ。ゝて明る彼牛とむゝゝ生ひ

去来世又牛と畜生ゝ時の牛人ゝ生れ来て。山牛と所の妻ゝろの因
果車輪のゝゝゝと去ゝゝ。ち浅後ゝてゝと業花ゝされゝでゝごゝらまあ
ゝ。ゝゝゝゝと改ゝゝ三ゝゝ仲神ゝ放てゝゝゝゝ蔵ゝゝゝあゝと行ゝ
ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ

昆沙門堂
大弘寺の和尚

木魚のおしゃう
えんふう
九八和尚
うんとくの寺

まつ。伊達のうまでい笑ひ[illegible]
[illegible]仕下され彼方へ向りて他の者ハ他家へのこれ[illegible]
中義の[illegible]を[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]代のあぢくわい又宗あくらうなどの十あさをはらまえそつみ伝ゆ
かうぞうとるんかう咲のてはてを抑ハこどう花ハ如のあさに月のつ
くゝんゝ強や毒丸坂なゝ山を拾ひ沈ハ月ハ美弱あくゝんまーまぜゝいてゝ山せ
つるゝ月ハとゝいのうなうぞうゝ月ハのゝくゝ寒ゝに咲げさゝさんと形と
ゝくゝまゝゝいとまゝくゝ花ハ紫ゝゝ咲げゝも八月まつくゝいづるゝゝ秋の
芋ゝんゝゝうゝげゝ実ゝゝ実ゝゝ下ゝゝゝ月ゝゝゝゝゝ大ゝゝゝ山伝ゝ咲ゝゝ
ゝゝゝゝゝ

とうてまをすは彼七福神の像をとりて
いづくにか別らし此新発意ぞ。世尊もこれ仏菩薩
なりとあきらめてむさぼるこころいまだ
はなれざりしかば又宮をたづねて法師
まうでぬ。小智小行の輩なるゆゑに
世の業をすてず仏道をねがはず
世間の業をもとめて遂にいたづらに
年をおくりぬ。老衰生涯のこころざしの
果をはたさんとおもひ出るまでの風
部にて学問をこころざしてこの
法師にまうでぬ。学問をこころざしてこの
法師にまうでぬ。学問をこころざしてこの
法師にまうでぬ。

同志僉議あるべき事なり。

一、[illegible]

一、[illegible]

一、[illegible]

とすり。おとこ男女の別なく郷ひの樹なるを手ごとにいとくハ
坊をかなり。男女なるお様なりけるといふて利鑁とろる。実に法
ふる徳でりーさまでつづをの神より見ぐるひさまを考る一ねみん鑁
まうら材サカ〳〵元ハ大坂たち新橋の芝おでちにりけさ法利のからんざ
ろぐぜんとう本名る眼の手ぐ〳〵おこ元と付を手ままよるみれ丸六幸や
ぐつきのまぐるひとうぐとろうあろ紀しもろよろそう利こぐりて破
ぐ新銀一つ仏のはと平伝とそをうく生あおと生でちふひっつき身
変の六名法変と去るゆきをうぐ。毎日猪八町十町のうれ鑁ふ
て書るる六人ゆ〳〵〳〵を海ハ。法沈体のかりげるぐ元仕
者なろる。ゆろよ竹田村のをは尾仏の系彼九八和高のをあふ十世で
の六五新鑁世法仏のかく〳〵弱うまそ主裏を倫りられで。京方鑁
の都内大きの弱る元書仏の法方ろ先と鑁さう人よ高ひ九人ろの

仏ろるのいろはまるを老ろも。主事れ風ろちうぬ食れそうをさ
るあすのよたれうまろざ〳〵ん。法吳修ハろるのぐ唯今出謝ひ
てハ。ぐをとめおる生とてのハ一該のるげさ新ろる我ぐを
嬰児の差母と考ぐ〳〵。却てハ勇一人の屠元成ハべ〳〵といろけ
まで。書仏紙の武方ろちりまでハに法てナれ。ぐびはれのハ石
主廻者必表のとろハ法仏ハるぐ〳〵人ど。法あろうてハま法
世法が現世の大るを考てそれへ。いまぐを唯ぐを世の出家重世の
お法ろ成ろぐハ祝族ろそおるを考ぐ法ハ百信ぬべ〳〵法ハ重人
ろ父のあろ四ろ仏ろよたといろ〳〵ぐ仏ろや行ぐ重〳〵と形ろ法ハ思
仏神ろぐ考ろるべ坊主れのろとそれるひ体む主高ハ扉とう今世
ろりぐ山姥の一新の仏ろと春の人影書の名やれまりんぐいうにぐろん
でろるハ〳〵そと四初稚のろ主まで仏ろ元名と新〳〵ろるあまろ

るかまくこと。沼先きまどろみ遠云にさしこまれ主人も代をゞ太郎
よ主蔵じ人。おのゞ古郷よりよ六義をもつて記ゐ主で
一ゑ佛よ拝ひしるゆ主べ出ゐ郷のそゞ太ろしとゆ杉藤の神ま
書ゑ道とそろ人。先ハ教ゆ教ゆ郷ゆ郷ゆ郷

第二　蓑長生上人

よゝ不老不死の法師ら
結縁する出る野辺の草の露
うせ果てゝ残れる拾ひ集めて拾ひ集めて

第三　蓑伏柳梅連中

見よう受けまるい美貌の名残
下びたるとうとうとう
紅花の上調子書雅とのゝ

一　蓑山映溝沢

老子の曰。国家混乱して忠臣あらはる。人心中まろうる。人心むゝ仰列塩治の
例とあらはれ名誉と来世に知れる。一大星氏の蓑山世に知れる。
於るに其彼中に胸ゲ孫まれる大星右衛門と武士ゲ。
うう多偏して仕官ムホ位ゼ家治人の為うれば大星一郎切
腹以後義士ホゲ苦悩と行ん。出都て強金庫が苦色れ
入院して。うる弟天的の法と追ひ。
びゝ八ゼんゲの雪行よ来和みん。
号一味りて法要ホ偏ド。大日法ゲ三摩耶戒ゲ色へり
我身ホあゲ地ゐ大風空の今剛の今祈めゝと知ゲ法
おりゝれゲ。ゝの法ゝ入つゲ。ゝ法ゝ

とゝ云結び一ふ百に成給て四十八年に滿ぬる。後信玄
勅命あり諸よ者こゝ玄後の孫よりの所以を尋ねして其文
ちお後のあとて大内藤と仕まつる百仏の誠なるに月日を遠
遠人数四十七人ふくゝ四つ。大星が勅宣にをけひ百信が本情
合先立一義を達ぐ芳名を存ぜ。山上宗人も入藤とゝぐ四つ
べーとて。裏屋よの大きゝ入倫の石牌と立彼四十七騎が市ゝ
て勅宣共四百ゝ大星一統が色田の色で
ゝて出るにおゝて一七日ゞ百義士成佛の脱のはるゝと独行せる。
別四十七人の遠中元をゝけ四百部ゝ堀新るに外ゝ
の肩衣のゝ自筆と紙て経典と絵付。四十七字共いろはゝ字にて
のゝ引とゝて。二月十五日ゝ仕宣軍霊ゝ日ゝ共系絵賜
くゝ知ゝ遠次屋八新のゝ人ゝ遠次屋ゝ新集共中と絵付

ゝけ四ゝ絵ゝ四ゝ仕ゝ人ゝ合四ゝ仕ゝ人ゝ合四ゝ仕ゝ人ゝ合

けでんしてあるを天師コリヤ大ゴのれ病ゴが杉浦さよ姫をゆれてしてさ立
さらげハ信抱も人うハ治の紙布ゆんあん袋の屋あるを亜性のこう益
織めと抜立滅よ見治う拵ゝ亜ろう。新て十九三ハ抜ゆきれ新ろう抜
あそこや変とさ治ちゆゝゴ命ゴうの天草ゆるゴ変ゝとゆ拵ゴ。
一抜たゝむ而もるゝ。恰ゴゆゝバ紙ゴるいいとゆるゆ人うゆうゝ合点ゴゆき。
切ッおさのひいゝゝうう天八一本ゆ天仕新ゝ新ゝて人の
門ゝよ立て俳ゝひらよ新の菜新ゝうゆ治ゴ人の境
異ゴ変ゝに切目よ塩も滅ゝ入ゝ色。治ゝゴ治父拵ゝ動高ゴ発の新ゴ
ゝゝ件の傳中ゝ拵ゝ新ゝ身ゝ抜ゝ新ゝ変ゝ新ゴ。ゝゝゴ
新ゴゝゝ新ゝ新ゝ新ゴ大病人新ゝ新ゝ新ゝ新ゝ新ゝ新ゝ
入ゝゝ治拵ゝ時ゝの抜抜。ゆ古ゝゝ治ゝ治ゝゝゝゝ
新新抜ゝ抜ゝ抜ゝ

をしたをさくれ〜紀姫ひうて。志のをとをいあぐらくうゆ江のあみ〜く。
中ぢ〜はよかのてへを堅紀う岭も子曰ふ南うゆ和ちゆくな
をどをを。こをや色ハ分別のあ指の内よう〇ま寸ゆこれ色ゆみそ一切
世ろのあ流ハ三間天魔亡國ゆ〜む志うひうん嘉し。彼色よ玉の
金剛のなれお会ゆて。ゆくれ蓋地夜叉も寺野よ龍入みて〜と
うんをよ山色別もめは蓋なのちゆ〜ゆて。ひ合こ手れ紀後ハ
ふひくゆけるゆゆまいとの中〜そ〜仏て体のめ〜おをし。ゆうひ造
ゆをはの手のうう粗玄にかれれ役ゆて。よの結ま人よけい世ちゆてか姫
自身の仕ちゆ叔ゆ所ふひ。ア為殿ゆちを〜ゆでゆをんを志ゆあゆで弘
と日ゆやにいひ〜と。彼日大を様蓋ゆて空身こめよ立後ま〜り〜。
む和ゆをとハ云ゆ〜〜志ろを大勢の人中ゆてけゆ〜ろ〜を弘ゆんまい。
身よう人〜を信とふを付ろ仕ろ志慢を。つ〇〜汝知ゆを也ハ蓮

華のをゆ紀ゆ。法華の中れ也紀ゆ生ゆ也ハ人て日月ゆを
たを〜く頂除ひを志ゆて五ゆ海ゆ菜ゆ五ゆ〜ゆ久。庵ゆを
除ゆゆでひを後と初ゆて。いま〜ひ人を体をゆ也ひを。也ゆを志ゆで
除をとうゆてゆゆを紀ハ義ゆをゆ不ゆゆ法人ハ世ゆ〜ゆ。除ゆ和ゆて和ゆ
日蓋大ゆを人ハ分仏ゆを也ゆ法ゆてのゆんゆを人ゆを信
ゆ和いをひとう〇〜ゆうゆ。ま〜ゆを〜〜ゆを殿ゆを〜ゆでゆを人ゆを
ゆ〜いまりいゆゆゆんまいハ。〜ゆひを〜ゆ也ゆを人ゆを
咲ゆを不用ゆを人ゆて〜ゆを〜ゆを人ゆを。ゆ〜ゆを〜ゆゆ〜〜ゆを人ゆを。
近ゆの大ゆを人ゆを蓋ゆを也ゆを和ゆを自ゆ〜ゆを〜ゆを人ゆを殿ゆを自ゆ〜ゆを〜ゆを人ゆを
ハ義ゆを人ゆを〜ゆを人ゆを〜ゆを人ゆを〜ゆを人ゆを〜ゆを人ゆを〜ゆを人ゆを〜ゆを人ゆを
鄭ゆを人ゆを人ゆを切ゆを人ゆを人ゆを人ゆを人ゆを人ゆを人ゆを人ゆを人ゆを人ゆを人ゆを人ゆを
人ゆ〜ゆを人ゆを人ゆを人ゆを人ゆを人ゆを人ゆを人ゆを人ゆを人ゆを人ゆを人

まゝのめぐみとゝ[illegible]おなじ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

とて。えもいはぬ町の擬宝珠九ヶ所ばかりに人々とて五人のしあがれ
ものゝ退出さんと。六七ヶ所のゝりはるにおゐて在所ゞが行ばよ
いとれ。世間よりをはせもの俗と云をきゝて。人かれ人毒ものゝ
ゝ人はをはもとおもひけるまや私毒ものゝ人ばかりとまう毒物
毒ものゝ人をとのちる屋よ世生殿ゝ人ゝ存ぬ。知ぬ
いつとも中ゝ毒のゝ人ゝ俗のゝ俗ゝ俗ゝ毒ものゝ人ゝ絵書ゝ奥
よ不立つおよ六日月逢ゝ毒ゝ知ゝ世ゝ生ゝ。ゝ世生ゝ毒ものゝ
ゝ。ゝ毒ものゝ俗ゝ毒ものゝ人ゝ毒ものゝ人ゝ毒ものゝ人

山ーるの庵室
だんかの代
おそろく
ぐん
吉言ちのき侍
天八
七ちつ

お土人
花ち位侍
少ゞ
初黄小

なる性分ありて、はなはだ人の耳目を恐れ、世を大
変のようにてはのうくくとどしまつる事なれば、仕まてたくさつく者共
〇三 芳仕紙梅連布

あるべき筋の相なるやいなやとおもふ事ありて、
百年ぶりに又ふたゝび女の義を立てあるべき人の事。柳こう仕合はせ
代浄土宗にて寺法の張。拙僧ありあるかなどこれもなき義
なるべし。寺中の者のあるべきふ月りとくしに名人あるべき
武家にて。居の型ハ新吉物の表にあまりませて。此仕紙と
あるべき月よりにいとひとりあるとうて仕あるべし。於奉行所
報ずべきもの。ものの面ぐ
ぬひ形なく面ハ初めの月の方ふ格別の味ひなる物。仕まへ
形なるべ京浄居してひそかの物仕あり。彼武家の面世仕紙の

名人なるを門弟入れどひ。寺中にあるべきの引めさして梅連一隅
ちゝ仕十数ごさん。毎日夜四ゝ月ふ六日の稽古日と定め師匠者共
てのゝけゝ合ひ。ハ人数より乗屋ぐれ生に此報のゝけこゝろ
合ひ。ハノ二枚の引ゝ脇ぐ二ハ形紙の見ひまひすかて中く
ゝもひ。ハ手ふあ。対ゝのに先ふハふはめれゝゝろぐゝふふ
ゝるハ。大工の勘ハ清水でふれのゝふ製ぐゝふ。ゝ仕てのゝたゝ
めの世業のゝうぐゝゝて人数ぐゝ
ゝ月りゝるふ。ハて蓮をゝげ。ふ義ハ初り
くふ初ゝゝの新紙のひとあひ。ハ人数ハ梅連
入まて合てゝゝゝは梅連仕ふとあぞうふゝ人形ぐゝ
立づいてもゝゝふかの選ゝ。武家ぐまるゝ
切ゝの美人を実入まぐ。ハテ、ち力まゝ

ゆゝしかるべきかたちにて二つハない。扨ホトケ
ゝ様ハ入ゝそさいぐゝ。まゝてみぐこいちゝ南無阿弥陀仏不生
無仏と唱へて。ゆゝ中ゝ法華の内ゝ場ゝそゞ。ゝてゝ
来て。乃ゝ合ゝ。ゝでハない。向ひの茶屋の道入が中ゝに嵜ゝ
揆で。高麗の茶こゞりゝ中ゝにゝつゝゝと前ゝ
い扨ホトケ様ハ。ゝ扨ゝ。ゝ向ふ中ゝ乳色ゝ見入ゝ
大キホあゞゝ見ゝゝゝ。ゝゝ入ゝ。ゝゝ。ゝゝ
ホ性でゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝ。ゝ。

あるまあり柳をなす。さながらくさぐれてふけきれ風ふかれて秋の
の秋以の外お遠ざかる。むしろ去たのしみ。傷寒とおもふ若法華の
ろよ風てまがあるよとおもふ。ふうんまうが。梅を右勢とる
ふたてびの面白くえくさにのくうめて(を)梅るまで終よ寒の
なことをとげどくうや。元信屋して宗都えろくとれ仲法のか。
梅ると涙や名仏よおわてとやそとも梅手いふ不ふ法ふ芳法こや
しやみて珠玉の梅梅さんごの言探言梅のさざけーうんごて
皆田作りの名りうづくり。梅元きあがるるあうあがらる梅る
毎まて入ぬまぶ見きる梅逃ぶをとおこうろ酔うさ。さてく梅
玉ふうのうろ新にじ中ぬ年れ風れ返ひ出さまるみうこと
ひす。丈流生作ふ出思ろうぬ。みぶくくも高ふ高法れお
名仏まてうもうく梅ぬもへぶ。唯一ふよあをあくぶくくと

ぶみぶうすに。梅も名ぶ月ぶみすあくよ宗乃とあてくくけを祝ぶ。
うりておのづくあも梅ふ梅古ろうる五ぶんうりうり物動ぶ。名とあて
安玉古春の浄ちうしるくくあ梅ぶくくとも梅ぶ梅ぶくくとも
うくくくふくくの武蔵を行ふ梅ぶ梅ぶくくとも
ぶあひぶ梅ぶあて。高美いよ宗ぶ月ぶ梅ぶ彼
やくうぶ年ぶ先ぶけの梅速年ハふよ及ぶ。春年れ花も祝ぶ
梅ぶ梅ぶ梅ぶ年ぶてお名ハいくくすぶ梅ぶくく

四くくあ梅

鬼貫句選

附録　禁足旅記

不去菴古祇著

全部二冊